

## 2021年度 産業数学の先進的・基礎的共同研究拠点 運営委員会での指摘事項に対する対応

2021年度の運営委員会にて委員の皆様からご意見・ご指摘いただきました事項について、下記の通り対応させていただいております。

- ① 産業界の参加緩和はやむを得ないが、マス・フォア・インダストリが看板なので産業界に向くという姿勢は維持しなければならないのではないか。先端技術ではあるが企業が取り組みやすい、というテーマを選んで頂きたい。

(対応済) 研究集会 (I) は産業界からの参加を必須とし、研究集会 (II) 及び短期共同研究は強く推奨としました。産業界からの参加が難しい場合、研究計画に対する産業界の研究者からの推薦書 (様式自由) を提出すれば、参加に準じるものとして扱う旨、応募要領に記載しました。テーマについては、適切なものを選び、研究集会などが企画できるよう、関係者に働きかけてゆきたく思います。

- ② レベルを下げて、チュートリアルシリーズの開催や、R・Python・先生方の自作のツール等を使ってハンズオン (体験学習) の機会を作り、企業の方に橋渡しできると良いのではないか。

(対応済) 研究集会 (I) (II) ともにチュートリアル的な内容でも応募可能としました。実際、2022c004 研究集会(II)オンライン型「工学と数学の接点を求めて」はチュートリアルに近い内容でした。

- ③ オンラインの研究集会サポートの会社がある。IMIが有料サポート代を支援すれば、国際研究集会をIMIに応募してやるメリットとなるのではないか。

(検討済) 検討しましたが、経費的にサポート会社に依頼することは難しいという結果になりました。

- ④ 共同研究のテーマに関しては、量子コンピュータなど、様々な企業が参加しているテーマがある。企業に役に立つ、且つ個別の企業ではできないようなテーマを数学的に選ぶことが重要ではないか。

(検討済) そのようなテーマを選び、研究集会などが企画できるよう、関係者に働きかけてゆきたく思います。

- ⑤ 研究集会のハードルを下げるという点で、英文の抄録 (提案書) をなくすことや、報告書もTeXだけでなくWordを併用した方が良いのではないか。

(検討済) 英語のHP用に英文抄録は必要ですが、研究集会 (II) の会議録をオプションにし、短期共同研究と短期研究員の報告書を5ページから3ページに減らしました。

(対応済) Wordの報告書は既に運用中です。

- ⑥ (企業人として研究課題名一覧を見て、自分のやっている業務とテーマが結びつかない。企業のニーズをどのように吸い上げているか知りたいという質問に対して)

数学のテクノロジーが具体的な産業にどう結びつくかを説明する資料はあるが共同利用拠点活動の中でうまく利用できていなかったのも、活動や成果を可視化してゆく努力をしたい。

(検討済) これまでの成功事例を発信したり、業界と数学技術の関連を説明する資料をお見せしたりするなどして、他分野や産業界から見ても魅力が感じられるような情報発信を検討したいと考えております。例として、共同利用・共同研究拠点のウェブページに「委員長's Choice」のコーナーを作り、優れた研究計画とその報告書を紹介しております。また、ウェブページ「IMI Project Files」(<https://topics.imi.kyushu-u.ac.jp/>) を公開しております。